

原発にNOを！

東北地方太平洋沖地震で、福島第一原発が爆発するという深刻な事態となっています。これまで歴代政府や電力会社は「原発は安全で環境に優しく経済的」と宣伝してきました。しかし、今回の事故により私たちの生命と生活が脅かされ、原発の危険性が明白となっています。現在の状況を見れば、私たちは今こそ原発に対してNOを突きつける時ではないでしょうか。

地震の空白域に建ち並ぶ原発

原発事故の最大の誘因は地震です。世界中で発生する地震の15%は日本周辺で発生していると言われています。日本では原発を建設する際の安全審査では「過去の地震が同じ規模で同じ場所で起きる」と考え、耐震強度を緩くできるため、原発が地震の空白域に建ち並びました。しかし地震の研究が進み、地震の原因が活断層にあり「地震の空白域が危ない」ことがわかったのです。その典型が福島原発です。

電磁波環境研究所・荻野晃也所長は2007年8月京都新聞で、柏崎刈羽原発事故の際「中越地震は最後の警告」として活断層上に建ち並ぶ原発の危険性を訴えていましたが、不幸なことに現実となったのです。

福島第一原発事故は人災だ！

原発では冷却に海水を使用するため、取水口を高くすと費用がかかります。そのため津波を過小評価し、活断層を短く評価すれば耐震設計も容易になり建設費も安くなるのです。30mの津波があった1933年宮城の三陸沖地震について、東京電力は「この地域の津波被害の記録がない」として、福島第一原発1号機は津波高を5.7m（今回の津波は14m）で設計していたのです。東京新聞によれば原子力安全耐震設計特別委員長の入倉氏は「大丈夫と言ってきたのがうそだった。人災だ」と謝罪したと報じています。

放射性物質漏洩のデータを明らかに！

政府や東京電力は、放射性物質漏洩について「心配ない」から「直ちには心配ない」へと見解を変え、避難範囲やデータも訂正が繰り返されています。その一方で、安全基準が緩和されるのではないかとされています。「人体には影響ない」との宣伝は本当でしょうか？疑問な点が多く存在します。政府・東京電力は、隠さず情報を開示するべきです。

福島原発の危険性は既に警告されていた！
原発を容認してきた責任は重大！